

October 22, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、続落 米長期金利の低下によるドル売りや株下落に伴う円買い**

21日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は113.99円と前営業日NY終値(114.31円)と比べて32銭程度のドル安水準だった。米長期金利の指標である米10年債利回りが低下に転じたタイミングで円買い・ドル売りが先行。ダウ平均や日経平均先物の下落に伴う円買いも入り、22時30分過ぎに一時113.65円と日通し安値を更新した。カナダドル円中心にクロス円が下落した影響も受けた。

ただ、米10年債利回りが1.7029%前後と約5カ月ぶりの高水準を付けると、ドル買いの様相が強まり114.05円付近まで下げ渋った。

なお、カナダドル円は一時91.89円まで値を下げる場面があった。WTI原油先物価格が80ドル台まで急落したことをきっかけに、産油国通貨とされるカナダドルに売りが出たほか、アジア時間に93.02円と2015年11月以来5年11カ月ぶりの高値を付けていただけに利食い売りが優勢となった。

ユーロドルは7営業日ぶりに反落。終値は1.1623ドルと前営業日NY終値(1.1651ドル)と比べて0.0028ドル程度のユーロ安水準となった。NY時間に入り、しばらくは1.16ドル台半ばでのみ合いが続いていたが、米長期金利が上昇傾向を強めると全般ドル買いが活発化した。5時30分過ぎに一時1.1620ドルと日通し安値を更新した。

ポンドドルは1.3776ドル、豪ドル米ドルは0.7459米ドル、NZドル米ドルは0.7141米ドルまで値を下げたほか、米ドルカナダドルは1.2384カナダドルまで米ドル高・カナダドル安に振れた。

ユーロ円は11日ぶりに反落。終値は132.49円と前営業日NY終値(133.16円)と比べて67銭程度のユーロ安水準。ダウ平均や日経平均先物の下落を背景に、投資家がリスク回避姿勢を強め円買い・ユーロ売りが優勢となった。足もとで相場上昇が続いていただけに、利食い売りなども見られ、2時過ぎには一時132.26円まで値を下げた。

トルコリラは急落。NY市場に入っても、トルコ中銀による大幅利下げをきっかけとしたリラ売りの流れが続いた。トルコ中銀はこの日、政策金利を現行の18.00%から16.00%へ引き下げると発表。市場では17.50%、もしくは17.00%への利下げが予想されていただけに、リラを売る動きが活発化した。対ドルで一時9.5333リラ、対円で11.94円といずれも史上最安値を更新した。

市場では「トルコの実質利回りは大幅なマイナスとなっていることから、今回の利下げは無謀。リラ安によって実体経済が深刻な打撃を受けるリスクがある」との声が聞かれた。

**【本日の東京為替見通し】ドル円 114円挟み神経質か、引け後のインテル株下落などは重し**

本日の東京時間のドル円は、114円を挟んで神経質な値動きとなるか。昨日は後場に入り日経平均の急落を受けてドル円もつれ安となった。日経平均の下げは中国恒大集団やその子会社の株価が10%を超えて下落したことが一因との話も出たが、同社株は香港ハンセンのオープン時から下落し、日経平均が下がったときはハンセン市場が昼休みだったことを考えると、恒大集団の動向を受けたものではないだろう。昨日の日経平均はレーザーテックや東京エレクトロンなど主力半導体株が下げを牽引したが、NY時間ではIBM株が弱く、インテルが引け後の決算で第3四半期売上高が予想に届かなかったことを受けて、大きな下げ幅を記録している。よって、本日も日経平均の上値の重さがドル円の上値を抑えることになりそう。なお、昨日のCME225先物は大阪取引所比で105円下落し、28625円で引けている。

また、米連邦準備理事会(FRB)は昨日トップ・オフィシャルの債券と株の取り引きを禁止する規則を設定した。海外の金融機関を中心に30年以上前から、すでにそのような規則があったことを考えると、相当遅い動きと思われる。すでにカプラン米ダラス連銀総裁、ローゼングレン米ボストン連銀総裁が辞任に追い込まれたが、パウエルFRB議長も米議会から再任を拒否する圧力が依然として強いことで、ホワイトハウスが再任に否定的な行動を示せば一時的にドル売り要因となりそうだ。

ドル売り要因もあるが、ドルを支える要因も多数ある。昨日のウエスト・テキサス・インターメディアート(WTI)で12月限は反落して引けた。しかし、値動きは一時80ドルまで下落後に、82ドル半ばまで戻したことを見ると、依然としてエネルギー需要が高いといえる。エネルギーのひっ迫懸念が根強く、インフレの恐れも変わらず、米金利も上昇傾向であることで、ドル買い需要はなかなか収まらないだろう。なお、本日はNY入り後にパウエルFRB議長、デイリー米サンフランシスコ連銀総裁が講演を行う。週末からブラックアウト期間に入ること、米金利に対して言及が行われる最終日となることで、それぞれの

発言には注意を払いたい。

円以外では、東京時間は引き続き豪ドルを中心としたコモディティ通貨の動きには注目したい。また、欧州入り後は、本日は仏・独・英・ユーロ圏などから各種購買担当者景気指数（PMI）速報値の発表が予定されていることで、欧州通貨も神経質な動きになりそうだ。昨日大幅な利下げを行い、暴落したトルコリラもボラタイルに動くことになるだろう。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

- 08:30 ☆ 9月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比0.1%）
- 08:30 ☆ 9月全国CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比▲0.4%）

### <海外>

- 10:00 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
- 15:00 ◎ 9月英小売売上高（自動車燃料含む、予想：前月比0.5%／前年比▲0.4%）
- 15:00 ◎ 9月英小売売上高（自動車燃料除く、予想：前月比0.2%／前年比▲1.7%）
- 16:00 ◎ ビルロワドガロー仏中銀総裁、講演
- 16:15 ◎ 10月仏製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値（予想：54.0）
- 16:15 ◎ 10月仏サービス部門PMI速報値（予想：55.5）
- 16:30 ◎ 10月独製造業PMI速報値（予想：56.5）
- 16:30 ◎ 10月独サービス部門PMI速報値（予想：55.0）
- 17:00 ◎ 10月ユーロ圏製造業PMI速報値（予想：57.0）
- 17:00 ◎ 10月ユーロ圏サービス部門PMI速報値（予想：55.5）
- 17:30 ◎ 10月英製造業PMI速報値（予想：55.8）
- 17:30 ◎ 10月英サービス部門PMI速報値（予想：54.5）
- 17:30 ◎ 9月香港消費者物価指数（CPI、予想：前年同月比3.0%）
- 19:30 ◎ ロシア中銀、政策金利発表（予想：7.25%に引き上げと7.00%に引き上げで拮抗）
- 21:30 ◎ 8月カナダ小売売上高（予想：前月比2.0%／自動車を除く前月比2.8%）
- 22:45 ◎ 10月米製造業PMI速報値（予想：60.3）
- 22:45 ◎ 10月米サービス部門PMI速報値（予想：55.1）
- 22:45 ◎ 10月米総合PMI速報値
- 23:00 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、討議に参加
- 24:00 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、パネルディスカッションに参加
- 欧州連合（EU）首脳会議（ブリュッセル、最終日）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

21日 05:34 メスター米クリーブランド連銀総裁

「利上げはすぐには実施されないだろう」  
「資産購入終了後はインフレと雇用を評価する時間がある」

21日 18:32 ビスコ・イタリア中銀総裁

「供給のボトルネックは予想よりも長く続く可能性があり、その影響は価格と生産にさらに重くのしかかる可能性」

21日 20:09 トルコ中銀声明

「国内の経済活動が引き続き堅調であることを示している」

「金融引き締めによる信用及び内需への影響が鈍化していることが観察される」

「強力な指標がインフレの恒久的な低下を示し、物価安定の主要な目的を追求して中期的な5%の目標が達成されるまで利用可能なあらゆる手段を講じる」

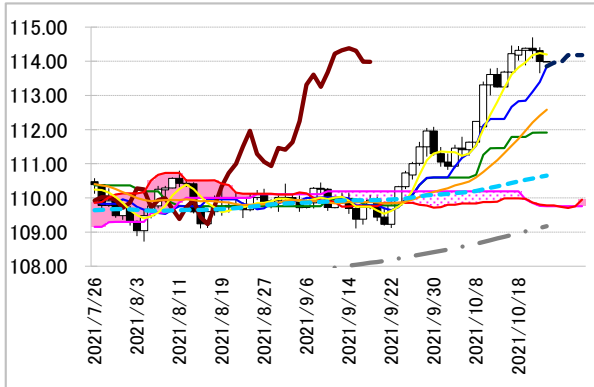
「供給側の一時的な要因が年末までに限定的な利下げ余地を残していると委員会は評価」

21日 22:18 ウォラー米連邦準備理事会(FRB)理事

「高インフレが継続した場合、FRBはより迅速に行動しなければならない可能性」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

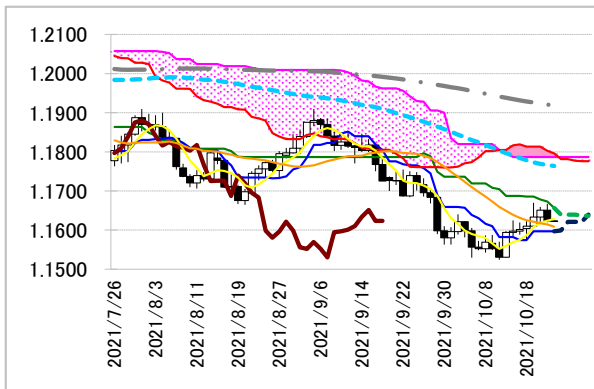


### <ドル円＝転換線前後で底堅さを示すか注視>

下影小陰線引け。上昇の勢いがいったん失速し、113円台へ下押しした。

上昇傾向の一目均衡表・転換線付近で下げ渋ることができるか見定めたい。113.85円へ切り上がった同線を割り込む場面はあるかもしれないが、転換線以下では底堅さを示すとみる。

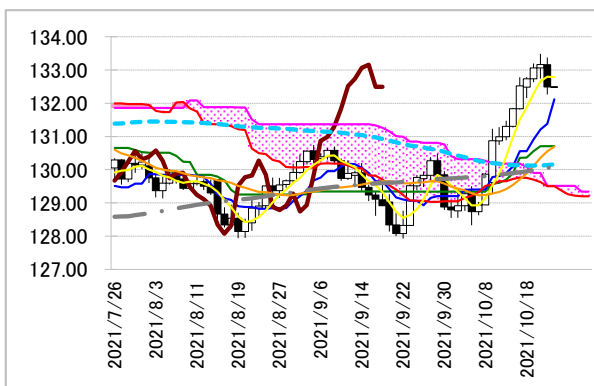
レジスタンス 1	114.41(10/21 高値)
前日終値	113.99
サポート 1	113.63(ピボット・サポート1)
サポート 2	113.00(10/12 安値)



### <ユーロドル＝基準線が抵抗となり 21日線付近へ下押し>

上影陰線引け。1.16ドル付近で低下中の21日移動平均線へ引っ張られるような推移を脱却したかに見えた。しかし、一目均衡表・基準線が抵抗となり失速し、再び同線が位置する方向に押し戻されている。基準線と一目・転換線の交差が想定される1.1630ドル付近へ取れんする流れが続くか。両線に挟まれたレンジを割り込むようであれば、年初来安値を試していく動きが再開することになる。

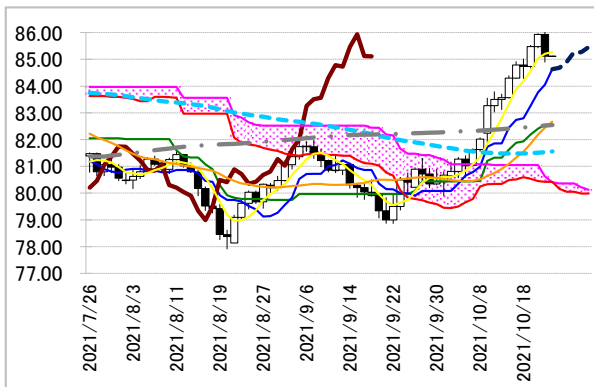
レジスタンス 1	1.1684(9/23 安値)
前日終値	1.1623
サポート 1	1.1572(10/18 安値)



### <ユーロ円＝5日線以下での調整どの程度か見定める局面>

陰線引け。これまで5日移動平均線付近にとどまっていた下押しが、132.79円へ上昇した同線を下抜け、一時132.26円まで進んだ。上昇の流れはいったん停滞。調整がこのまま進むか見定める局面となる。132.12円まで上昇した一目均衡表・転換線前後で底堅さを示すと思うが、131円台が目先の落ち着きどころになる展開も想定しておきたい。

レジスタンス 1	133.01(10/20-21 下落幅の61.8%戻し)
前日終値	132.49
サポート 1	132.05(ピボット・サポート1)



### <豪ドル円＝転換線以外にも支えあり、大きな崩れ回避へ>

陰線引け。多くの円絡みの通貨ペア同様に、高値圏で調整が入る状態となった。上昇が続く見込みの一目均衡表・転換線付近が下押しの目安となるが、下げ渋って下ひげをとまなう足型を形成した18日安値84.28円なども支えとなり、84円割れとなるような崩れは回避できるだろう。

レジスタンス 1	85.73(10/21 下落幅の61.8%戻し)
前日終値	85.12
サポート 1	84.63(日足一目均衡表・転換線)

